

ソフトウェアプロセス改善カンファレンス2021

SPI Japan 2021



ソフトウェアプロセス改善カンファレンス2021

SPI Japan 2021

パネルディスカッション

変えるもの/変えてはいけないもの

～自社とJASPICと産業界の

20年の改善活動を振り返って～

10月8日 13:30～15:30

はじめに

登壇者の自己紹介

- **パネリスト：**（五十音順、敬称略）
 - 赤松 康至（オムロン株式会社）
 - 安倍 秀二（株式会社エーアンドエス・コンサルティング）
 - 端山 毅（株式会社NTTデータ）
 - 和田 憲明（富士通株式会社）
- **司会：**
 - 遠藤 潔（JASPIC運営委員長、株式会社日立ソリューションズ）

(えんどう きよし)

司会：遠藤 潔



所属：株式会社日立ソリューションズ
セキュリティソリューション本部
セキュリティコンサルティング部

プロフィール：

- ・日立スパコン用LSIの設計ソフト開発に従事、開発リーダー、マネージャーを経験
- ・組み込みソフト開発、自社CMMIアセッサを経て、コンサルテーション業務に従事
- ・組み込み系（ストレージ機器、通信機器、家電品、半導体、事務機器、自動車、鉄道、車載機器、医療機器、航空/宇宙等の開発／製造メーカー）、エンタプライズ系（生保、損保、銀行、Sier等）のプロセス改善コンサルテーション（18年間）
- ・ECQA認定SPIマネージャー、JASPIC研究員（2005～）、同運営委員長（2018～）

(あかまつ やすゆき)

赤松 康至 氏



所属：オムロン株式会社

インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー
技術開発本部第3技術部、技術専門職

プロフィール：

- オムロン株式会社において約20年全社ソフトウェアプロセス改善およびソフトウェアプロダクトラインを推進。
- 現在はカンパニー横断のグローバル技術ナレッジ共有システム構築・運用
- 認定 CMMI Lead Appraiser(2004-2018),
CMMI Instructor(2006-2018)
- JASPIC研究員(2005-2018)

(あべ しゅうじ)
安倍 秀二 氏



- 1982年 松下電器産業(株)入社
民生品の研究開発、製品化を担当
- 2002年 SW-CMMを用いた組織のプロセス改善を担当
- 2005年 CMMIを用いた全社のプロセス改善を推進
- 2007年 車載開発組織のSEPGを担当
- 2008年 Automotive SPICEを用いたプロセス改善を開始
- 2009年 機能安全規格ISO 26262に出会う
以来、機能安全 Automotive SPICEについて
国内外の関連組織のプロセス構築、教育、アセスメントを実施
- 2018年 定年退職し「エーアンドエスコンサルティング」を立ち上げ、
機能安全・Automotive SPICE・システム設計に関連する
プロセス構築・教育・導入支援・アセスメントなどの支援を開始
- 2020年 法人化「株式会社エーアンドエス・コンサルティング」

日本SPIコンソーシアム(JASPIC)研究員、日本SPICEネットワーク
(NSPICE)運営委員

その他、ソフトウェア開発力強化、機能安全規格関連の審議などに多数参画
Intacs Certified Automotive SPICE Principal Assessor

(はやま たけし)

端山 毅 氏



株式会社NTTデータ 技術革新統括本部
テクノロジーストラテジスト

プロフィール：

株式会社NTTデータにおいて全社QMSの構築運用、
CMMI適用とプロセス改善施策、
PM育成/支援施策、定量データ分析などを推進。
同社品質保証部長(2010-2015年)。

株式会社NTTデータユニバーシティ社長(2015-2017年)。
JASPIC理事、JISAデジタル技術部会長、PMI日本支部副会長、
東京工業大学情報理工学院非常勤講師、博士(工学)、PMP。

(わだ のりあき)
和田 憲明 氏



所属：富士通株式会社

プロフィール：

2006年に社内でアジャイルコミュニティを作り普及活動を実施。2011年から現在まで技術支援部門でアジャイル支援活動に従事している。また、社外の様々なアジャイルコミュニティにも参加し、日本でのアジャイルの潮流を長年肌で感じてきた。趣味はジャグリングの面白さを多くの人に伝えること。アジャイルとジャグリングには共通点が多いと思っている。
「ジャグリングは見るよりやる方が100倍面白いですよ」

<主な活動>

- ・ 情報処理推進機構（IPA）アジャイルWGメンバ（2017年～現在）
- ・ アジャイルジャパン実行委員（2010年～2020年、2015～2017年は実行委員長）
- ・ JASPICアジャイル分科会（2016年～現在）

パネルディスカッション

変えるもの/変えてはいけないもの

～自社とJASPICと産業界の
20年の改善活動を振り返って～

- **パネリスト：** (五十音順、敬称略)
 - 赤松 康至 (オムロン株式会社)
 - 安倍 秀二 (株式会社エーアンドエス・コンサルティング)
 - 端山 毅 (株式会社NTTデータ)
 - 和田 憲明 (富士通株式会社)
- **司会：**
 - 遠藤 潔 (JASPIC運営委員長、株式会社日立ソリューションズ)

パネルディスカッション

企画内容：

- 過去からJASPIC会員企業で社内外の改善活動に携わってきたレジェンドの方々をお招きしてのパネル討論
- 自社や顧客企業の改善活動を推進したパネリストのご経験から振り返って得たものを以下の観点よりご紹介
 - 1) 変わったこと/変わらなかったことは何か？
それは成功か、それとも失敗か？
 - 2) これから変えたいものは何か？
 - 3) 変革に役立つ能力とは何だろうか？
我々はそれを持っているだろうか、足りないものは何か？
- 司会/パネリストが上記に対し質問して意見交換/深掘りを行い、DX時代に役立つ知見を引き出したいと思います

パネルディスカッション

進め方：

- 13:30～13:40 司会ご挨拶、パネリスト自己紹介
- 13:40～14:40 パネリストプレゼン+質疑応答
(10分+5分) ×4名
- 14:40～15:20 登壇者による自由討論
変革の本質、大切なこと、必要な能力、今後に向けて
- 15:20～15:25 まとめ

※ご質問はチャットでお願いします。

司会がタイミングを計り対応できる範囲内でご紹介する予定です。

また、JASPIC内部での研究活動の参考とさせていただくため、

本セッションを録画させていただいております。予めご了承ください。

そのため、チャット投稿の際には個人情報にご配慮をお願いいたします。

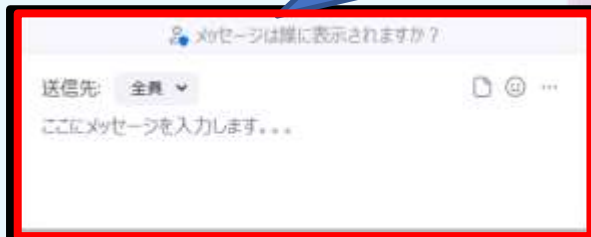
ご質問の投稿方法

ご質問は、Zoomのチャット機能にて投稿をお願いします。
投稿は、質問内容のみで結構です。

①チャットアイコンを
クリック



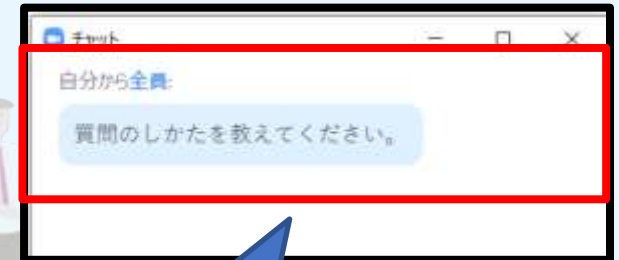
②チャット入力用ウインドウが表示されていることを確認



③質問を入力し、
Enterキー入力



送信先は「全員宛て」に



④入力した質問
が表示されることを
確認

文中で改行したい
ときは、
Shift+Enterキー
(Windows OS)

パネルディスカッション

13:40～14:40 パネリストプレゼン+質疑応答
(10分+5分) ×4名

自社や顧客企業の改善活動を推進したパネラーのご経験から振り返って得たものを以下の観点よりご紹介

1) 変わったこと/変わらなかったことは何か？

それは成功か、それとも失敗か？

2) これから変えたいものは何か？

3) 変革に役立つ能力とは何だろうか？

我々はそれを持っているだろうか、足りないものは何か？

パネルディスカッション

14:40～15:20 登壇者による自由討論

- ・変革の本質とは、特に大切なことは何か
- ・変革に必要な能力は何か、どうやって強化するか
- ・今後に向けて
- ・他

司会/パネリストがプレゼン内容に対し質問して意見交換/深掘りを行い、DX時代に役立つ知見を引き出したいと思います

パネルディスカッション (メモ)

端山さん

- ・変わったこと：ソフトウェアエンジニアリングの普及、アジャイルも
- ・変えたいもの：廃れさせない⇒制度化・定着、共通プラクティスが肝
- ・変革能力：歴史から学び続け、機を読み手段を選び、信念で継続

安倍さん

- ・変わったこと：高品質システム目指しエンジニアリング国際標準を意識
- ・変えたいもの：セキュリティ法規対応など、世の流れに沿い成長続ける
- ・変革能力：品質改善力を軸に学びと抽象化力で必要な属性を獲得

赤松さん

- ・変わったこと：コンサル人材育成(SPLスキル定義＋能力評価)とナレッジ蓄積でSPLを全社に普及し、事業で成果
- ・変えたいもの：社会/技術変革に向け、Flexibleなプロセスを構築
- ・変革能力：ビジョン・意義を掲げて周りを巻き込む、挑戦を促す風土

和田さん

- ・変わったこと：ITの新技術や能力進化、競争相手が海外や異業種に
- ・変えたいもの：エンジニアが意思決定に関与し、ITトレンドを活用
- ・変革能力：元々適応能力はある、他者への敬意と早く正しい決断力

パネルディスカッション (メモ)

共通認識

- ・エンジニアリング手法の多様化、浸透
- ・社会/技術変革に対応できる柔軟なプロセスの必要性

相違点 または 不明点

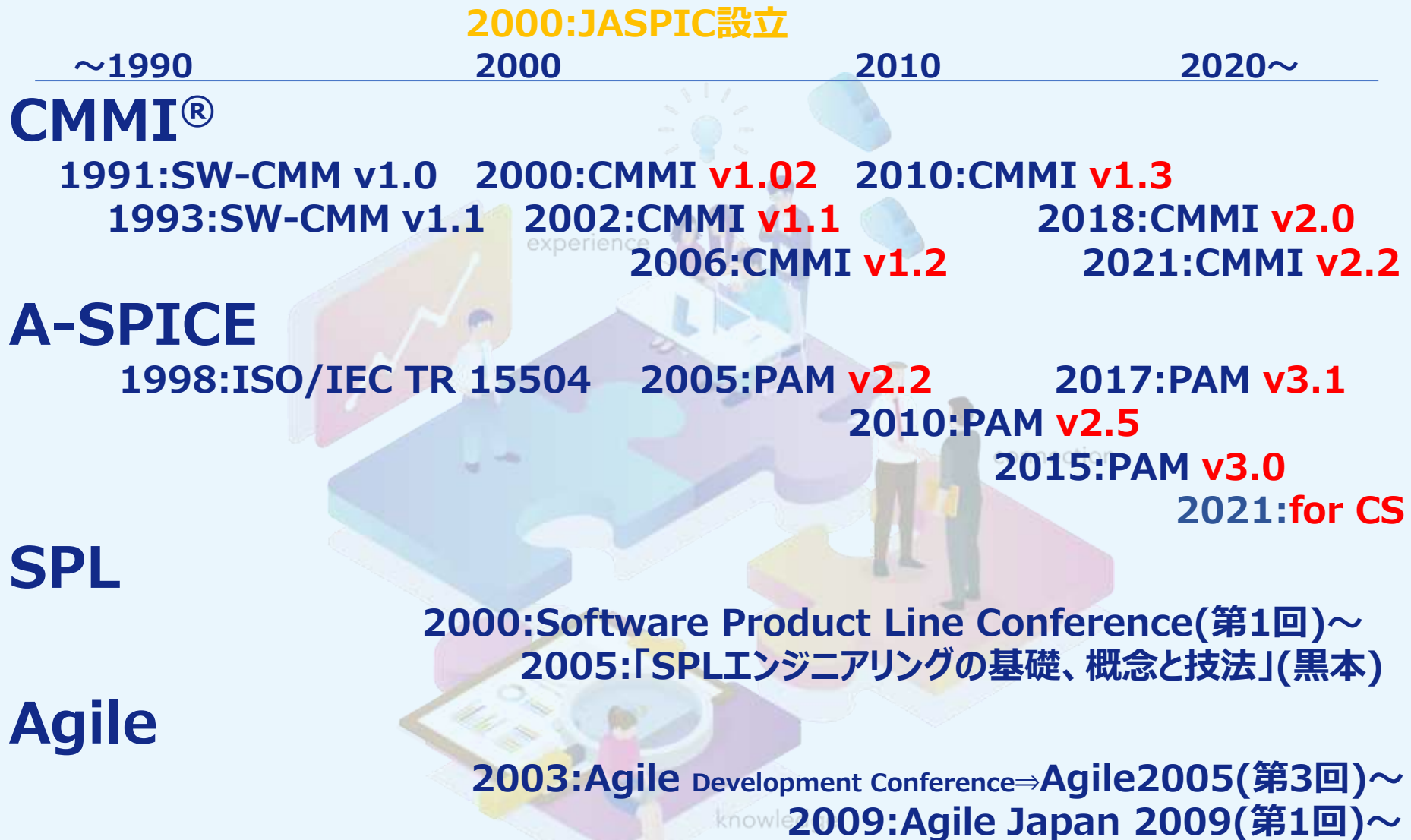
- ・日本の産業界は、過去20年上手くやってきたのか？ 失敗したのか？
- ・CMMI、A-SPICE、SPL、アジャイルは成功したのか？ 評価は？
- ・CMMI、A-SPICE、SPL、アジャイルは今後どうなり、どう付き合うか
- ・変革に必要な能力として、必須のものは何か？ 我々は持っているか？ どう強化すればよいか？

新たな論点

- ・組織プロセス(品質)重視 vs 個人能力(共創・革新)重視
- ・JASPICまたは日本の産業界として、今、変革とどう向き合うべきか？
- ・

過去からの流れ

(ご参考)

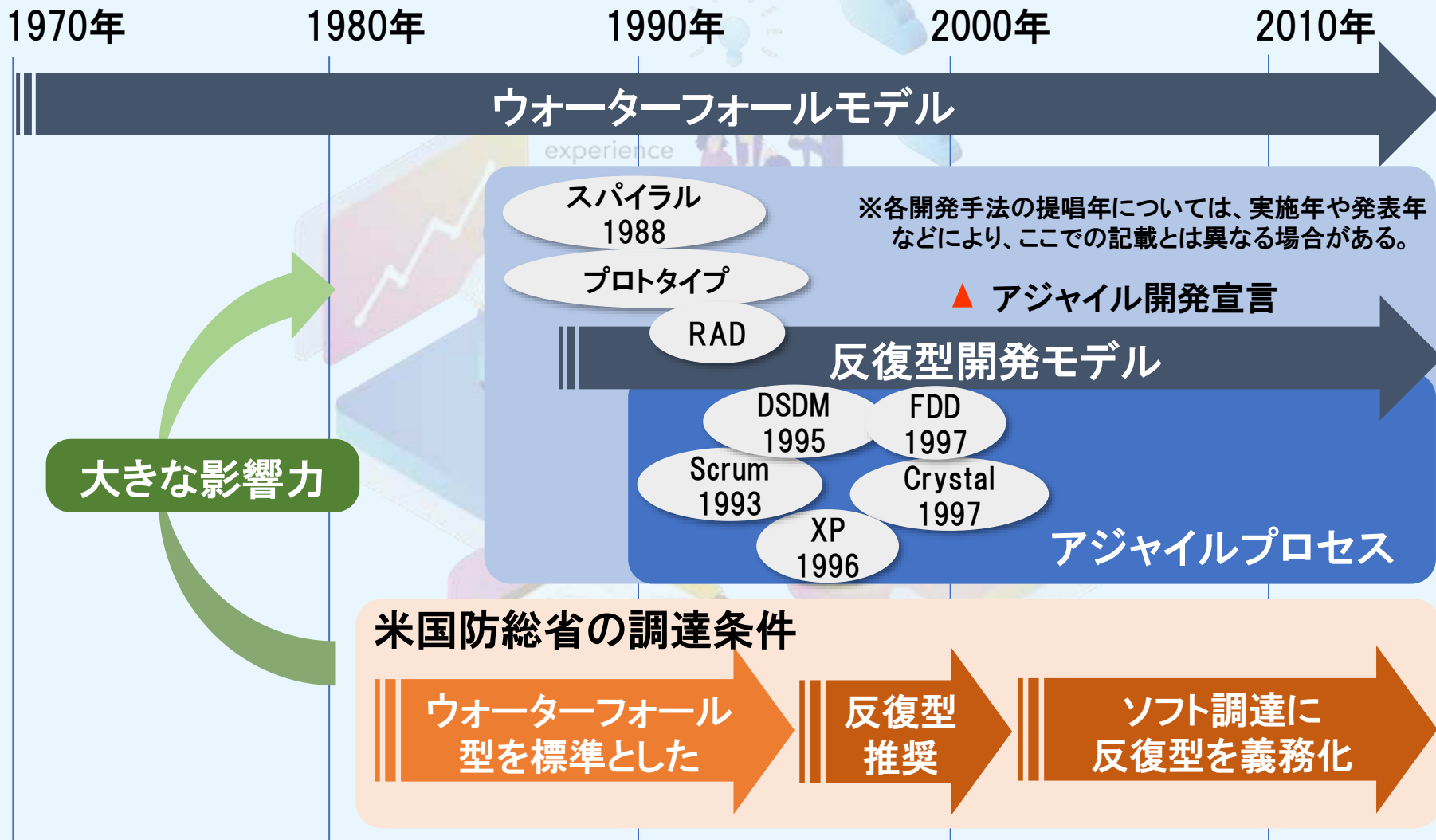


®CMMIは、CMMI Instituteにより米国特許登録庁に登録されています。

Agile (補足)

(ご参考)

1990年代半ば以降、各種アジャイル開発モデルが相次いで提唱されてきた



Agile (補足)

(ご参考)

アジャイル開発宣言 : アジャイルとはこの4つの価値観を重視した開発の考え方

私たちは、ソフトウェア開発の実践あるいは実践を手助けする活動を通じて、よりよい開発方法を見つけだそうとしている。この活動を通して、私たちは以下の価値に至った。

- | | | |
|--------------|-----|------------------|
| ・ プロセスやツール | よりも | <u>個人と対話を</u> |
| ・ 包括的なドキュメント | よりも | <u>動くソフトウェアを</u> |
| ・ 契約交渉 | よりも | <u>顧客との協調を</u> |
| ・ 計画に従うこと | よりも | <u>変化への対応を</u> |

価値とする。すなわち、左記のことがらに価値があることを認めながらも、私たちは右記のことがらにより価値をおく。

Kent Beck

Mike Beedle

Arie van Bennekum

Alistair Cockburn

Ward Cunningham

Martin Fowler

James Grenning

Jim Highsmith

Andrew Hunt

Ron Jeffries

Jon Kern

Brian Marick

Robert C. Martin

Steve Mellor

Ken Schwaber

Jeff Sutherland

Dave Thomas

2001年に軽量ソフトウェア開発の専門家 17人が集まり議論し宣言した

「© 2001, 上記の著者たち この宣言は、この注意書きも含めた形で全文を含めることを条件に自由にコピーしてよい。」

引用元のURL: <http://agilemanifesto.org/iso/ja/>

Agile (補足)

(ご参考)

アジャイル開発に分類される手法

- Evo (Tom Gilb—1976年「Software Metrics」)
- Scrum (Ken Schwaber—1993年「アジャイルソフトウェア開発スクラム」)
- DSDM (1995年「DSDM ver1」)
- XP (Kent Beck—1996年「XPエクストリーム・プログラミング入門」)
- FDD—Feature-Driven Development
(Peter Coad—1997年「Javaエンタープライズ・コンポーネント」)
- Lean Software Development
(Mary Poppendieck, Tom Poppendieck—2002年「リーンソフトウェア開発」)
- Crystal Clear (Alistair Cockburn—2004年「アジャイルソフトウェア開発」)
- EssUp—Essential UP
(Ivar H.Jacobson—2005年「Rational Software Development Conference」)
- Kanban (David Anderson—2010年「Kanban」)

DXとは？

(ご参考)

DXとは

・デジタルトランスフォーメーション：「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という仮説。デジタルシフトも同様の意味である。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』、2004年にスウェーデンのウメオ大学教授、エリック・ストルターマンが提唱

・企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

出典：経済産業省「DX推進ガイドライン」

SPI Japan 2021基調講演でも、株式会社クレディセゾンCTO/CIO 小野和俊様が以下のように述べておられます。

・誰のどんな喜びに寄与する仕事なのかが重要
CX（Customer Experience：顧客体験）、
EX（Employee Experience：従業員体験）を考えると、
DXは、CXとEXが勘所となる。

パネルディスカッションを終了します。

ご清聴ありがとうございました。

15:30から、クロージングを開始します。
小休憩をお取りになり、そのままお待ちください。

